

眼と加齢—白内障について



◆ 白内障とは・・・？

いわゆる中年以降、目の中のレンズ＝水晶体に白い濁りが徐々に生じてきます。これが白内障と言われるもので、加齢による水晶体の変化です。

稀に、先天性のもの、放射線や赤外線照射、ステロイド剤などの副作用によるもの、またブドウ膜炎等の目の病気による続発性白内障などもありますが、大多数は加齢性白内障です。一般に60歳代で70%、70歳代で90%、80歳以上になるとほぼ100%の人に白内障が認められると言われています。



◆ 症状は・・・？

症状は、視力低下や目のかすみ、光が眩しい、眼鏡をいくら調整しても合わない、物が二重、三重に見えるなどさまざまです。元々近視の人では、近視が進むこともあります。濁りの程度や状態によって症状には個人差があり、加齢とともに進行します。ただし、白内障だけでは痛みや充血は起こりません。



◆ 治療について・・・

治療は、進行を遅らせる点眼薬もありますが、一度濁った水晶体は元には戻りません。老眼鏡を掛けても字が読みにくい、運転中眩しくて危なく感じる、などと日常生活に支障を感じるようになったら手術を考えてもよいでしょう。

◆ 手術について・・・

白内障手術は、濁った水晶体の中身を超音波で砕いて吸引し、替わりに人工の眼内レンズを移植します。局所麻酔で10～20分程度で終わり、成功率も高く、比較的安全といえます。しかし、短時間で出来る＝簡単な手術ではありません。手術前に主治医の話をよく聞き、良い点と悪い点を十分理解してから判断されたほうがよいでしょう。

阿南病院では、月に1回～2回、白内障の手術を行っています。基本的に3泊4日の入院になります。まずは、先述した症状に当てはまる方は、一度外来受診をお勧めいたします。